

2024年4月における評価方法の変更等の概要

■ 評価方法の変更について

評価方法を次の通り変更しました。

<暖房設備／冷房設備>

1. ルームエアコンディショナーについて、JIS C 9612:2013「ルームエアコンディショナ」の規定に準じ、本評価方法における定義を変更しました。当該の変更に関して、次の技術資料等を公開しました。
 - 技術情報の第四章「暖冷房設備」第一節「全般」

<自然エネルギー利用設備>

2. 開放形太陽熱温水器が評価対象として新たに追加されました。当該の変更に関して、次の技術資料等を公開しました。これに伴い、評価に用いる当該機器の仕様を表すパラメータを下表のように変更しました。なお、当該変更の前後で評価結果が変わる場合があります。

表 液体集熱式太陽熱利用設備(開放形太陽熱温水器)の仕様を表すパラメータの変更

変更前(2023年3月以前)		変更後(2024年4月以降)	
液体集熱式太陽熱利用設備の種類	仕様を表すパラメータ	液体集熱式太陽熱利用設備の種類	仕様を表すパラメータ
● 太陽熱温水器	<ul style="list-style-type: none"> ● 集熱部総面積または集熱貯湯部面積／有効集熱面積 ● 集熱部の設置方位角 ● 集熱部の設置傾斜角 	● 開放形太陽熱温水器	<ul style="list-style-type: none"> ● 給湯接続方式 ● 太陽熱用水栓の種類 ● 集熱部総面積 ● 集熱部効率係数 ● 集熱部熱損失係数 ● 循環流量係数 ● 熱交換器伝熱係数 ● 貯湯タンク容量 ● 有効出湯効率 ● タンク放熱係数 ● 集熱器の設置方位角 ● 集熱器の設置傾斜角

当該変更に伴い、次の技術資料等を公開しました。

- 技術情報の第七章「給湯設備」
- 技術情報の第九章「自然エネルギー利用設備」第二節「液体集熱式太陽熱利用設備」
- 技術情報の第九章「自然エネルギー利用設備」第三節「空気集熱式太陽熱利用設備」

■ 上記以外の修正等について

技術情報等を次の通り修正しました。

<外皮>

3. 開口部の熱貫流率及び日射熱取得率の計算において、付属部材の影響を評価する際のルールを整理しました。当該の整理に関して、次の技術資料等を公開しました。なお、当該整理の前後で評価結果が変わる場合があります。
 - 技術情報の第三章「暖冷房負荷と外皮性能」第三節「熱貫流率及び線熱貫流率」
 - 技術情報の第三章「暖冷房負荷と外皮性能」第四節「日射熱取得率」

<暖房設備>

4. 電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯温水暖房機（給湯熱源：ガス瞬間式、暖房熱源：電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用、貯湯タンクなし）について、温水暖房用熱源機における行き温水温度の候補を修正しました。当該の修正に関して、次の技術資料等を公開しました。なお、当該修正の前後で評価結果が変わる場合があります。
 - 技術情報の第四章「暖冷房設備」第七節「温水暖房」

<自然エネルギー利用設備>

5. 液体集熱式太陽熱給湯設備において、給湯熱需要を超えた補正集熱量が計算される不備を修正しました。当該の修正に関して、次の技術資料等を公開しました。なお、当該修正の前後で評価結果が変わる場合があります。
 - 技術情報の第九章「自然エネルギー利用設備」第二節「液体集熱式太陽熱利用設備」

以 上

※「技術情報」とは、国立研究開発法人 建築研究所が公開する「平成 28 年省エネルギー基準に準拠したエネルギー消費性能の評価に関する技術情報(住宅)現行版」です。「資料」、「Excel ツール」および「WEB アプリ」とは、WEB サイト「住宅に関する省エネルギー基準に準拠したプログラム」において公開する入力補助ツール・補足資料です。

エネルギー消費性能計算プログラム(Ver.3.6.0)における更新の内容

現行バージョン(Ver.3.5.0)からの変更点は、次の通りです。

●Ver.3.5.0→Ver.3.6.0(令和6年4月1日)●

<暖房>

1. 「電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯温水暖房機(暖房部:電気ヒートポンプ・ガス | 給湯部:ガス | 貯湯タンク:なし)」において、温水暖房用熱源機における行き温水温度の区分及び候補が「55℃、45℃、35℃」であるべきところを、「60℃、40℃」としていた不備を修正しました。

<太陽熱>

2. 液体集熱式太陽熱給湯設備において、給湯熱需要を超えた補正集熱量が計算される不備を修正しました。
3. 液体集熱式太陽熱利用設備の「設備の種類」に「開放形太陽熱温水器」が追加されました。

以上

住宅・住戸の外皮性能計算プログラム(Ver.3.6.0)における更新の内容

現行バージョン(Ver.3.5.0)からの変更点は、次の通りです。

●Ver.3.5.0→Ver.3.6.0(令和6年4月1日)●

<住宅・住戸の外皮性能の計算プログラム Web アプリケーション>

1. 開口部の付属部材の影響を評価する際のルールが整理されました。窓の付属部材については、熱貫流率計算用の付属部材と日射熱取得率計算用の付属部材の入力が分かれたことに伴い、それぞれに入力された1つの付属部材の影響を評価するように変更しました。複数の付属部材を入力していたケースについてはこの変更により評価結果が変わる場合があります。
2. 1に伴い、窓の計算結果画面に表示される付属部材について、熱貫流率の詳細画面については熱貫流率計算用の付属部材、日射熱取得率の詳細画面については日射熱取得率計算用の付属部材が表示されるようになりました。
3. 開口部の「日除けの有無」の名称と選択条件について整理をしました。窓の「日除けの有無」の名称を「上方の日よけの有無」へ変更し、取得日射熱補正係数の算定方法が簡易法の場合にのみ、「上方の日よけの有無」の入力が必須となるように変更しました。ドアの「日除けの有無」の名称を「日よけの効果係数の指定の有無」へ変更し、「日よけの効果係数の指定の有無」が「指定する」の場合にのみ暖房期・冷房期の日よけの効果係数の入力が必須となるように変更しました。
4. 熱貫流率の計算に用いる建材等のうち、直交集成板(CLT パネル)が計算に使用できない不備を修正しました。

<住宅・住戸の外皮性能計算条件入力シート>

5. ⑤窓シートについて、以下の変更をしました。
 - (ア) 1つであった付属部材の入力を熱貫流率計算用と日射熱取得率計算用に分けて入力するようにしました。また、○印による入力ではなく仕様書の文言にあわせた単一項目選択式に変更しました。
 - (イ) 開口部の「日除けの有無」についての整理に伴い、「日よけの有無」を「上方の日よけの有無」に名称を変更しました。
 - (ウ) 日射熱取得率の計算に係る入力項目を垂直面日射熱取得率と取得日射熱補正係数の項目に分けて整理しました。それに伴い、「算定方法」、「ガラス仕様(区分)」の列を移動して取得日射熱補正係数の項目にまとめました。また、簡易法入力項目と詳細法入力項目の列を入れ替えました。
 - (エ) 垂直面日射熱取得率の入力項目で仕様選択と値入力が入力されていたものについて列の追加を行い移動しました。それに伴い、窓1つにつき2行を使っていたところを1行となるように変更しました。

6. ⑥ドアシートについて、以下の変更をしました。
 - (ア) 付属部材の選択を○印による入力ではなく仕様書の文言にあわせた単一項目選択式に変更しました。
 - (イ) 開口部の「日除けの有無」についての整理に伴い、「日除けの有無」を「日よけの効果係数の指定の有無」に名称を変更しました。
 - (ウ) シートの整理を行いました。「付属部材」、「日射の有無」の列の位置を変更し、ドア1つにつき2行を使っていたところを、1行となるように変更しました。

7. 開口部以外を入力シートについて以下の整理をしました。
 - (ア) ①壁等-木造、②壁等-RC造、③壁等-鉄骨造シートにおいて不要な列を削除しました。
 - (イ) ⑦基礎等シートの不要な列を削除し、入力開始列を他のシートと統一してB列始まりとしました。
 - (ウ) ⑧熱橋シートの入力開始行を他のシートと統一して9行目始まりとしました。また、「日射の有無」の列位置を変更しました。

以上

共同住宅フロア入力法計算プログラム(Ver.3.6.0)における更新の内容

旧バージョン(Ver.3.5.0)からの変更点はありません。

以上

日よけ効果係数算出ツール(Ver.3.6.0)における更新の内容

旧バージョン(Ver.3.5.0)からの変更点はありません。

以上

土間床等の外周部の線熱貫流率の算出プログラム(Ver.3.6.0)における更新の内容

旧バージョン(Ver.3.5.0)からの変更点はありません。

以上

共同住宅等の計算結果集計プログラム(Ver.3.6.0)における更新の内容

旧バージョン(Ver.3.5.0)からの変更点はありません。

以上